

2025 年度 自己点検評価結果

カリタス幼稚園

1. 本園の教育目標

本園はカトリック精神に則り、モンテッソーリ教育の理念にそって、幼児を教育し、心身ともにすこやかな育成を図ることを目的としている。また、学園の教育理念（信・開花・交わり・奉仕）に基づいて、次の教育目標を掲げている。

- ・思いやりのある優しい心をもつ子を育てる
- ・よく見、よく考えて、最後までやり通す強い心をもつ子を育てる
- ・友達とともに感動し、喜びを分かち合える豊かな心をもつ子を育てる

2. 本年度の重点目標と取り組み状況

重点目標 「互いに育ちあう 希望の光に照らされて」

項目	内容	取組状況
1 教育活動	・子どもが主体的に生活できる環境づくりを進める ・一人一人に寄り添うきめ細やかな保育 ・食育の推進 ・様々な専門家学習の体験	・クラスの環境づくりや行事の取り組みを再確認した。 ・二人担任、補助教員の配置できめ細かい対応を行った。 ・給食を開始し、食育推進を心がけた。 ・将棋、ユニセフ協会によるSDGs、ステイールパンなど、専門家の方による指導により、子どもの興味関心を広げる活動をおこなった。
2. 施設	・登戸待機ステーション建設	カリタス登戸ビルの建設について、SOU建築設計室、林建設、法人本部、小学校と連携し遂行した。またステーションの運営の詳細を検討した。
3. 研究	・保育研究をまとめる ・モンテッソーリ教育の継続した学び ・子どもの表現活動の研究 ・公開保育による研究 ・研修会への参加	・研究紀要第7号を発行し、研修日には紀要の内容をもとにラウンドテーブルを行い、理解を深めた。 ・「保護者のためのモンテッソーリ教育」（年6回）で行われる保護者の見学の機会に、教師自身もモンテッソーリ教育の初心に立ち返り、子どもの対応にあたった。東京国際モンテッソーリ教師トレーニングセンターの夏期講習会を本園で行ったり、公開保育研究会でトレーニングセンター代表三浦先生にご指導頂たりして、全教員がモンテッソーリ教育の研鑽に務めた。 ・子どもの表現活動の研究については、講師の日程が合わず、直接の指導は受けられなか

		ったが、スティールパンのワークショップを行うことができた。
4. 行事	・ 宿泊保育 ・ 子ども主体の行事 ・ スティールパンの活用	・ 年長の宿泊保育も3回目となり、宿泊時の行事等は実施側も慣れて充実した内容となってきた。今年は給食も開始し、小学校のランチルームでのスペシャルディナーは好評だった。 ・ 運動会では年長児が主体となって進行をした。お別れ会は年中児が主体となって企画・進行をした。 ・ 園のイチ押しの活動として、年間を通じてスティールパンの演奏活動を行った。 ・ 初めての取り組みとして卒園祝福式を行った。幼稚園生活を無事に終えることができることを感謝し、これからの歩みを神父様に祝福していただいた。
5. 財務	・ 施設型給付園のとして運営の健全化 ・ 経費節約	・ 施設型給付園初年度は、各種申請書類が質、量ともに事務方にとってはかなりの負担となったが、本園の各種取組や組織、運営等を見直す良い機会ともなった。 ・ 新園舎建築、給食室建設と給食開始、登戸駅前のカリタス登戸ビルの建設と送迎待機ステーションを設置など、大きな事業が続いた。ハードを維持しつつ、経費節約に励むことをもっと推進したい。
6. その他	・ 多摩区幼・小連携に参加 ・ 課外活動の充実 ・ 保護者のモンテッソーリ理解を深める	・ 幼稚園と小学校の連携について、カリタス小学校とは、教職員同士、子ども同士の活動や連携は盛んである。また、多摩区内での「幼保小架け橋プログラム」や多摩区の連絡会にも参加している。 ・ 課外活動の英語は今年度より「ジャクパ英会話教室」に依頼した。預かり保育のクラスを別途設けるなど、参加する園児にあったクラス編成としてもらったのが良かった。 ・ モンテッソーリ園として、保護者にモンテッソーリの理解を深めていただくのは、大きな課題である。年6回実施した三浦先生のモンテッソーリ勉強会は、以前より参加者が少なくなっている。共働きの保護者が増えたことも一因と思われる。どのように保護者にモンテッソーリ教育について理解を深めてもらうのか、もっと検討しなければならない。

3. 全体の振り返りと今後の課題

クラス担任に、1年を振り返り、今年度のテーマに沿った保育ができていたか。モンテッソーリ園として保育をする中で難しさを感じる点や今後の改善点について、回答してもらった。

① 振り返り

- ・互いに育ちあう・・・同学年も年下に対しても教えあう姿が見られるが、一方、口調が強くなってしまうなどの場面も多々見られたため、子どもたちとチクチク言葉とふわふわ言葉の本を読み、一緒に考えたところ、相手の気持ちを考えて話そうとする子どもが増えた。
- ・教員間で「過保護にしない」を共通認識とすることで子どもたちが自分で気づいて注意しあったり、時間がかかっても最後まで自力でやり遂げようとする力がついた。
- ・縦割り保育の中で年長児が年下の友達を気にかけて積極的にお世話をしてくれたことで、タンポポの子がクラスにきた時に、年少児が同じようにかかわってくれた。
- ・各学年が縦割りクラスの中でいろいろな企画・運営し、学びあう様子を見て、年長はみんなのために力を使うようになり、年中年長は自然と感謝の気持ちが生まれたように思う。
- ・モンテッソーリ活動では、活動をホワイトボードに記入し、教師の声掛けを最低限にすることで、時計を見て次の行動を考える子どもが増えてきた。
- ・隙間の時間には、教具やモンテッソーリ活動に関する一斉活動をゲーム感覚で取り入れ、皆で行うことにより、様々な活動と出会えるようにした。

② 今後の課題

- ・保護者に対して園迎えや行事、バス添乗で会った際、あいさつや子どもの様子の共有などが重要と感じた。
- ・給食が始まったことで、環境を変えずにモンテッソーリ活動と給食を両立させることが困難だった。
- ・教室の形状的にモンテッソーリにふさわしい環境を整えるには限界がある。
- ・給食の配膳があるため、モンテッソーリ活動の時間が決まっていて、本人がキリのいいと思うところまでやらせてあげたいが難しい。
- ・たくさんの教具はそろっているがそれらを活かして展開するためのスペースや教員が不足している。もっと教具の魅力を伝えていくための環境設定、オープンスペースの活用、配置の工夫など、今後も工夫の必要がある。
- ・手のかかる子に手を取られ、手のかからない子にもっと手をかけたかった。
- ・一人ひとは進級当初と比べると成長しているが、もっと伸ばしてあげられたのではないかとと思われる子もいる。
- ・日常生活の中にモンテッソーリ教育が自然に溶け込んでいくことが理想だが、幼稚園だけの生活ではないので、各家庭の意識や協力も大切と感じている。子どもの力を信じて見守ることや必要最小限の援助について保護者にもわかりやすく声掛けをしていくことが必要だと思う。

以上